

V. 特記事項

進路支援（CDP、ほし☆たび）

1. CDP (Career Development Program)

1) 学生の就業意識の向上、職業選択の幅を広げるプログラムの導入

職業能力開発及び職業選択拡大の目的で、平成17（2005）年度にCDPを導入した。

公務員・税理士の2コースから始まり、平成19（2007）年度の人間科学部設置に併せて教員コースを設置。平成26（2014）年度より短期大学部にCDPプログラムを導入。

さらに、平成28（2016）年度より人文学部に教員コース（中高英語）を新設した。

エクステンション課職員自らが授業を担当し、授業時間以外での質問にも応じる体制があること、資格・検定試験についての知識を生かし、将来の資格取得について適切なアドバイスができること、短大も含めた公務員・教員の2次試験対策指導まで担当講師と連携しフルサポートできることなどが、学生にとって力強い存在として捉えられ、学習への不安を払拭する役割を果たしている。

平成28（2016）年度より、進路支援課とエクステンション課は、共に資格支援、就職支援体制をさらに強化し、専門性、独自性をより高めた。職員の学生指導、窓口対応に時間を多く費やし、個別指導を強化するため受験期間中の学生対応の見直しを行ったところ、学生との接触回数が増え、情報を即時提供することができるようになった。結果として、全体の合格者数は過去最高の実績を更新し続けている。

実績として、公務員（平成27（2015）年度49人、平成28（2016）年度53人、平成29（2017）年度51人、平成30（2018）年度58人）、教員（平成27（2015）年度25人、平成28（2016）年度30人、平成29（2017）年度33人、平成30（2018）年度30人）と近年は実績が安定している。

2. ほし☆たび（洋上クルーズ研修）

本学独自の就職支援事業として「ほし☆たび」を行っている。平成22（2010）年度より実施し、通算10年16回夏季・春季休業中に行った。内容としては、フェリーで中国（上海）やロシア（ウラジオストク）へ行き、船内で就職に向けてのグループワークを実施する。現地では各自の目標・計画に基づき主体的に見聞を広げさせる。帰路の船上では、今後の大学生活での目標を設定し宣言させる。帰国直後にはレポート提出し、振り返りと学びの定着を図っている。さらに半年後にはフォローアップも行っている。

参加者は、大学生活の早い段階で目標設定が行えるよう1・2年次に限定し募集しており、4年次生もチューターとして一緒に乗船している。

これまでに1・2年次合計595人、4年次127人が参加した。

〔エビデンス集資料編〕

【資料特1-1】2018年度 CDP 合格者報告冊子

【資料特1-2】2019年度 エクステンション講座ガイド

【資料特1-3】ほし☆たび上海 2017 報告冊子

【資料特1-4】ほし☆たびウラジオストク 2018 報告冊子